
君心

Y u k k y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君心

【Nコード】

N2874F

【作者名】

Yukky

【あらすじ】

主人公のクラスに可愛い転校生が！？友達はみんな彼女付きだけど俺だけ居ない…。

転校生

前書き

中学生だからちよつと言葉を間違ってるかもしれないのですいません。

転校生

俺の名前は前田^{マエダ} 光輝^{コウキ}。

ここは愛知県××市の北条中学校だ。

今このクラスでは明日来る転校生の話で持ち切りだ、転校生は女の子でかなり可愛い子らしい。

「よう！光輝！明日この1ー5に来る転校生、可愛いらしいな。」
今のは友達^{かとう}の加藤^{かとう} 真司^{しんじ}結構イケメンだ。真司には彼女がいたけど俺には居ない…。

真司の彼女はまあまあ可愛いし結構頭もいい、
名前は須藤^{すじょう} 絵美^{えみ}ちゃん。

何故俺には彼女が居なかった？だって面倒じゃない？
時々欲しいと思うことも有るけど…。

「キーンコーン」帰りのチャイムだ。

「光輝帰ろうぜ」

「お前は絵美ちゃんと帰らなくていいのか？」

「いいのいいの」

そんな呑気な話をしていると…。

「よくない！」

絵美ちゃんが現れた。

「びっくりしたあ」

と話している俺を無視して話し出す絵美ちゃん。

真司と絵美ちゃんは俺のことを忘れて歩きだす…。

二人の姿が見えなくなった…。

完全に置いてかれた…。

俺は一人で寂しく帰った。

やっと来た朝

「ピ。ピ。ピ」

目覚ましがなった。

うるせーなー…！！

「そうだ！！」

俺はベッドから跳ね起きた。

今日は転校生が来る日だ！

急いで着替えて家を出た。

走って学校に向かった。

クラス皆が席に着いて少したった。

「楽しみだなあ？」

後ろの席の真司が話しかけて来た。

噂をすれば…転校生が戸を開けて入って来た。

だんだんと…

「おはようございます…」

転校生は凄く恥ずかしがり屋のようだ。

「私は工藤桃子くどうももこです。よろしく」

てっぺんハゲの白石川（先生）が俺の隣の席を指差している。

そういえば前隣に居た人転校したって言ってたなあ…。

「よろしくお願いします…」

突然話しかけられてびっくりして声が出てしまった。

「わ!…」

ハゲの白石川が近付いて来た。

「どうした前田この子が可愛いくてびっくりしたか？」

クラス皆笑った

「ハハハ」

三限目の前の自由じかん桃子さんがおどおどしてる。

「どうしたの？」

「教科書忘れちゃった…」

ヤバイ今にも泣きそうだ。

しかも三限目は数学で武井（先生）だ。

アイツはちよつと忘れただけでキレル。

既に泣きそうな桃子さんは武井がキレたら絶対泣く。

「俺が貸してやるよ」

「えっでも…」

その瞬間チャイムが鳴った。

「何か忘れものした者立て」

武井が叫んだ。

その時立ったのは俺だけ…

「おいっ！前田！お前！！バカヤロー！」

俺はちよつとキレた…

「うるせーな！何時も声がかけえんだよ！」

「先生に向かってうるさいとは何事だ！グラント十周して来い！」
俺はそんな武井を無視して席に着いた。

「全く」

武井はやっと諦めたようだ。

授業が終わったとき：

「光輝さんすいません！ありがとうございました！」

「いいっていいって、それに呼び捨てでいいよ」

桃子さんは恥ずかしそうに言った。

「光輝：私も呼び捨てでいいよ！」

ここらが甘くて苦い恋の始まりだった：

勢いで：

プルルル、プルルル

「はい、工藤です。」

「もしもし？桃子？私私、理恵よ！」

「うそゝ理恵ちゃん？久しぶりゝ」

「久しぶりゝあのさあ、今度久しぶりに会わない？彼氏も一緒にダブルデートしよお？：どうしたの？まさか彼氏居ない？それは無いよねえ：だって桃子可愛いもんねえ：私の彼氏超ゝカッコイイんだよ！桃子は？」

なんかちよつとムカつくなあ：

「私も居るもん！」

「何怒ってんの？まあいいや：明後日の土曜に駅前午後一時ねえ！じゃ！」

ガチャン！：そうだ：私転校してきたばかりでまだどんな人が居る

のかさえ知らないのに…知ってるとしたら…

「光輝…」

次の日…

「はぁ…眠っ」

光輝は凄く眠そう…

「あの…明日一時に駅前に来て下さい…私…友達に勢いで彼氏が居るって言っちゃったの…お願い…」

「いいよ…逆に俺はこんなに可愛い桃子にデートに誘われて…スゲー嬉しいよ」

「ありがとう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2874f/>

君心

2011年1月25日23時57分発行